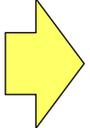


# 産業団地造成工事の有効活用事例

## 建設発生土有効活用事例

**概要**

<p>(甲)</p> <p>発注者 : 直轄事業</p> <p>工事種類 : 空港整備工事</p> <p>工期 : H27.6.10~H28.03.18</p> <p>工事概要 : 敷地造成工、 雨水排水設備工、 通路広場整備工</p> <p>土質 : 第2種建設発生土</p>		<p>(乙)</p> <p>発注者 : N市土地開発公社</p> <p>工事種類 : 造成工事</p> <p>活用用途 : 埋立材</p> <p>土質 : 第2種建設発生土</p>
---	---	--

**利用調整の方法**

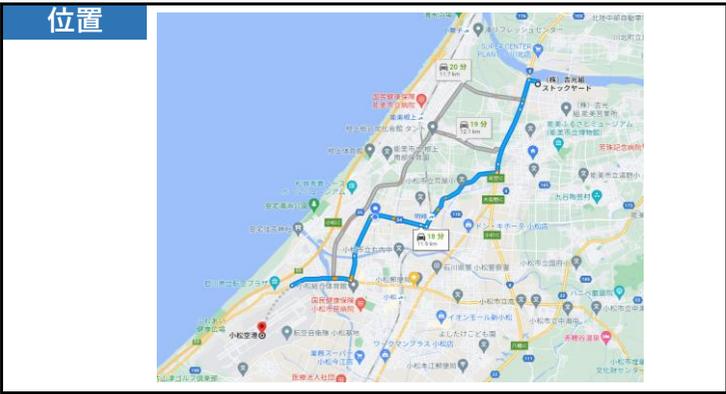
- ・ K空港用地造成工事から異物混じり土の処理として、ストックヤードへ建設発生土 33,000m<sup>3</sup>が搬出され、ふるい分別を行った。
- ・ 工事の6カ月後にストックヤード近くでN市土地開発公社 産業団地工事があり、発生土の利用調整を行った。

**費用負担**

費用負担	発生工事	利用工事
発生工事現場での土砂積み込み費	●	
発生工事現場から利用工事現場までの運搬費	●	
利用工事現場での土砂の整形費、敷均し費		●

**ポイント**

- ・ 受け取った建設発生土は十分な強度が確認された事から石や雑木を除去し、N市土地開発公社さんへ販売した。
- 購入土よりも低価格なので工事費が抑制でき、低価格で分譲出来た事により企業誘致に成功。



**写真**

(甲) K空港用地造成工事



発生量  
33,000m<sup>3</sup>

↓

(乙) 産業団地造成工事



有効利用量 :  
20,000m<sup>3</sup>  
活用用途 :  
造成

# 河川工事の有効活用事例

## 建設発生土有効活用事例

**概要**

発注者 : 直轄事業  
工事種類: 河川工事  
工期 : R4.11.21~R5.3.31  
工事概要: 土砂改良工  
土質 : 粘性土(工事間利用)、砂質土

**土質改良**

設置場所 : ストックヤード  
改良の種類 : 2種混合  
処理土量 : 50,800m<sup>3</sup>

**利用の経緯**

河川工事において発生した建設発生土及び工事間利用で受入した他事業の建設発生土を築堤盛土材として利用するため、2種類の土砂を万能土質改良機により攪拌混合(粒度調整)した。

**ポイント**

管内から発生する建設発生土はそのままでは築堤材としては利用できない砂質土であるため、他事業から受け入れた粘性土と組合せて攪拌混合することにより、堤防基準を満たす盛土材を製造し活用された。

(混合条件)粘性土:砂質土=1:1

